

京都・中世・勝龍寺城跡

しょうりゅうじじょう

長がこれを攻略し、永禄三年（一五六〇）には細川藤孝に下される。

細川藤孝は元亀二年（一五七一）に城を再整備するが、天正九年（一五八一）に藤孝は宮津城に移り、翌年の山崎の戦いにおいて、

明智光秀軍の拠点となり、落城した。

- 1 所在地 京都府長岡市東神足二丁目
2 調査期間 一九八四年（昭59）五月～八月
3 発掘機関 長岡市教育委員会・財長岡市埋蔵文化財センター

- 4 調査担当者 岩崎 誠
5 遺跡の種類 城館跡
6 遺跡の年代 室町時代（一五七一年～一五八六年）
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

勝龍寺城は、小畠川と犬川の合流点付近に位置する中世後期の平

城である。築城については、

暦応二年（一三三九）に細

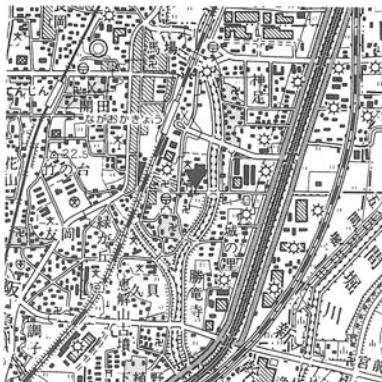
川頼春・師氏によるとする

説と、長禄元年（一四五七）に畠山義就が乙訓郡役所として造営したとする説がある。戦国時代末期には松永久秀と三好三人衆の属城となっていたが、織田信

大般若經転読札の断片である。上端を山形に尖らせた形態で、ヒノキの板目材を用いている。墨画面は片面のみで、平坦に加工しており、裏面は板割り時の木目に沿つた凹凸が残る。左側面は欠損しており、欠損部の一部に焼け焦げと思われる黒色炭化が見られる。

木簡の出土位置は勝龍寺城の北東隅にあたる。また、出土地点か

ら約一五m北に西接する土壘には、六世紀末の古墳が封じ込められ



（京都西南部）

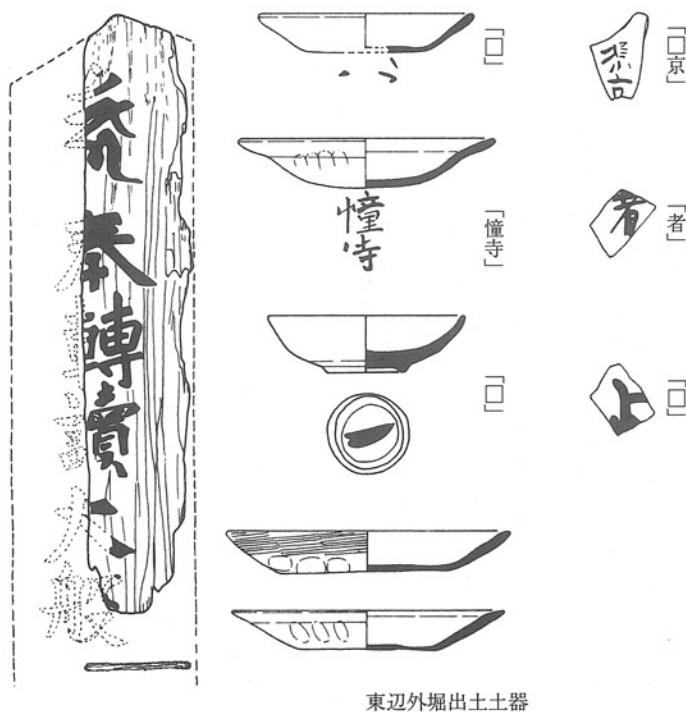
- 8 木簡の釈文・内容
(1) 「奉転読」〔大般若〕
(272)×(42)×3 081

と思われる。

ており、今回の木簡の出土位置は、その用途を考える上で興味深い。

9 関係文献

長岡京市教育委員会『長岡京市文化財調査報告』一五（一九八五年）
同『長岡京市文化財調査報告』一七（一九八六年）
(岩崎 誠)



東辺外堀出土土器

木簡研究 第二五号

卷頭言—木簡を観る—

二〇〇二年出土の木簡

平川 南

概要 平城宮跡 平城京跡右京二条三坊三坪 西大寺旧境内

興福寺
一乘院跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊 藤原京跡右京一条一坊

藤原京跡右京六・七条四坊 飛鳥京跡苑池遺構 酒船石遺跡 坂田寺

跡 長岡京跡 平安京跡右京三条一坊六町 東寺（教王護国寺）旧境
内 中之島六丁目所在遺跡 長原遺跡 西ノ辻遺跡 鬼虎川遺跡 中

野遺跡 讀良郡条里遺跡 三原石田遺跡 中林・中道遺跡 貞養院遺

跡 上橋下遺跡 中村遺跡 箱根田遺跡 五合拝遺跡（仏法寺跡）

下宅部遺跡 騎西城跡 騎西城武家屋敷跡 大慈恩寺遺跡 羽黒遺跡

野路岡田遺跡 西河原宮ノ内遺跡 三堂遺跡 弥勒寺西

遺跡 松本城下町跡中町 藥師遺跡 佐野城（春日岡城）跡 泉廐寺

跡 仙台城跡（二の丸北方武家屋敷地区） 大古町遺跡 市川橋遺跡

志羅山遺跡 中尊寺境内大池跡 藩校明徳館跡 新城平岡（四）遺跡

石盛遺跡 畠田・寺中遺跡 中屋サワ遺跡 南新保北遺跡 下冲北遺

跡 浦廻遺跡 草野遺跡 屋敷遺跡 青木遺跡 黄幡一号遺跡 延行

条里遺跡 浜ノ町遺跡 新藏町三丁目遺跡 常三島遺跡 守護町勝瑞

遺跡 南江戸闕日遺跡 別府遺跡 柄網南塚遺跡 下月隈C遺跡群

高畑遺跡（元岡・桑原遺跡群）

一九七七年以前出土の木簡（二五）坂田寺跡
祝文の訂正と追加（六）

志賀公園遺跡（第一四号） 元岡・桑原遺跡群（第二三号）
中世木札文書研究の現状と課題 田良島 哲
長登銅山遺跡出土の銅付札木簡に関する一試論 畑中 彩子
古代荷札木簡の平面形態に関する考察 友田那々美
書評 富谷至編『辺境出土木簡の研究』 高村 武幸
彙報

頒価 500円 送料60円